

丙

第百二十五号  
外務省  
各省

長崎物産一取  
官報第...  
各省

別紙一册  
各省

各省  
各省

各省  
各省

各省  
各省

各省  
各省

月

外務省

各省  
各省

各省  
各省

各省  
各省

各省



濟

外交部

第百五十三号

〆

中野下  
の思達一及

古集軍集

利紙甲号一及 第百五十三号

乙百五十三号一及

中野下

の思達一及

利紙甲号一及

外務省



七よたれん

外務省

萬二千二百一十号

九月廿九日

外務省

出

方心あり

事務者

了らば其の事務を承継する旨を閣下へ報告する

事務承継の件は閣下へ報告の上申す所である

本日の事務承継の件は閣下へ報告の上申す所である

本日の事務承継の件は閣下へ報告の上申す所である

本日の事務承継の件は閣下へ報告の上申す所である

本日の事務承継の件は閣下へ報告の上申す所である

本日の事務承継の件は閣下へ報告の上申す所である

本日の事務承継の件は閣下へ報告の上申す所である

本日の事務承継の件は閣下へ報告の上申す所である

外務省

事務承継の件は閣下へ報告の上申す所である

九月廿九日	預午時	發午時	第 號	字 報	七音信料	出 届賃	偏	技術方
-------	-----	-----	-----	-----	------	------	---	-----

松山郵便局

松山郵便局

クワレクハ	タツシヲ	ダシタレドシ	コシ子シ	カリガイコクヨリ	ニツホシニテ	キンホシ	シケンノタメ	セイガクカ	キタルユエ	ソノキカイ	ヲヨビ	ジヨウヒシワ	コシユルヨリ	トッケイデタレバ	トヤマセイニテ	ユニウエニムベシ
-------	------	--------	------	----------	--------	------	--------	-------	-------	-------	-----	--------	--------	----------	---------	----------



以嘉慶二十七年十月十四日

今收獲星之島毒氣之命人  
層層之氣之味不之層大之味  
不之味之味之味之味之味之味  
之味之味之味之味之味之味之味  
之味之味之味之味之味之味之味  
之味之味之味之味之味之味之味  
之味之味之味之味之味之味之味  
之味之味之味之味之味之味之味  
之味之味之味之味之味之味之味  
之味之味之味之味之味之味之味

九月九日 三三三三三三

文部省

外務大臣 少輔

東之博より電信修繕

東之博より電信修繕ノ義ヲ奉ルガ事トシ  
其ノ中ニある自生来ニ意ヲ寄ルニ於テハ  
此ノ博ニ修繕ノ事アリテ其ノ修繕ノ事トシテ  
是ノ了ノ事ハ又ハ電信修繕ノ事トシテ其  
者ノ修繕ノ事トシテ其ノ修繕ノ事トシテ  
其ノ修繕ノ事トシテ其ノ修繕ノ事トシテ  
其ノ修繕ノ事トシテ其ノ修繕ノ事トシテ  
七年九月廿二日 今ノ博ニ修繕ノ事

古傳即來ハ度

九月廿二日 二万五千五百 工部省



七  
海軍

六

事一查三言五号

海軍中尉大伴益行

曰 少尉 檄 野 使

本年三月、金星試験之事、項を先般

末由事合々、義多々、於、取、前、事、有、名、氏

米國天文家、隨從試験、中、有、名、氏

寫濟

奉天會戰五十年

海軍部對大連海軍  
日 本 海 軍 健

七年十二月五日... 陸軍部... 海軍省

奉天會戰五十年

海軍省

濟

七〇の内  
七〇の内

外務省

外務省

外務省  
外務省

外中

別紙甲第之通米公使より中野に并乙号  
之通免状付共設比知事又子我丙号之  
通中野に付税通関署へ送付大蔵省電  
任線之に依りて該省へ送付するに長  
崎縣より税を達するに及ばずとも  
明治七年十月三日

外務省

別紙甲第之通米公使より中野に并乙号  
乙号一乃の通米公使より中野に并乙号  
丙号一乃の通米公使より中野に并乙号

七〇二五

郵務

庶務局

十のり二五二

御名

有る

也

神分七十九

去月廿六日附英籍より令般金口生実測  
為グワイットソン氏、叔家負附添傳習  
儀曰氏於に欲来つて居る旨と申、故に咸悉  
有る且又右と書中エドワルト氏長寄港  
着奈、即ち就通開る事、夕ワイットソ  
ン氏被地海陸電信線連續之為短線架  
設、其被地電信官負、周旋之旨電  
行、以て去年様に依り、未だ領事及去  
る九月、右の件共、至急被地、電報  
其の助、去年の事、決其回各、口を  
明治七年十月

外務省

羊子信

外務部

七全海軍は

印海軍

兵部

中 外務大臣 外務大臣 外務大臣

金屋武候ある各國皇太子家迄、其の各皇太子に  
奉送するは、海軍大臣に、其の旨を申上る事  
及、其の旨を、海軍大臣に、其の旨を申上る事  
及、其の旨を、海軍大臣に、其の旨を申上る事

明治七年十月一日

外務省

皇太子の公使に、其の旨を申上る事  
及、其の旨を、海軍大臣に、其の旨を申上る事

海軍



海

七月二日 外務省

申文丁大権後

寺宮の御名

先般佛國皇太子上邸下中へ御初見の  
際、皇太子の権威は、大権三司の御名は、佛國  
の年法を御守り申す、其の御名は、佛國  
の御名は、佛國の御名は、佛國の御名は、佛國  
の御名は、佛國の御名は、佛國の御名は、佛國  
の御名は、佛國の御名は、佛國の御名は、佛國  
の御名は、佛國の御名は、佛國の御名は、佛國

明治二十九年

外務省

七月二日





七月十日

外務省 十月十日

卿

有

大政大臣 渡実義 外務省 官

全皇 御換 佛國 人 守 守 守 守

富年 志 異 皇 御 換 佛 國 各 國 皇 子 不 追 之 後

子 母 之 皇 子 及 上 申 之 御 方 之 皇 子 不 追 之 後

皇 家 御 換 佛 國 各 國 皇 子 不 追 之 後

皇 家 御 換 佛 國 各 國 皇 子 不 追 之 後

皇 家 御 換 佛 國 各 國 皇 子 不 追 之 後

明治三十年十月十日

外務省

3-2508

0292

天

萬國天文学士ダビットソン氏外八名并従者  
大倉喜八郎氏宛てての書翰

七ノ月廿九日

校  
石

寫濟

米國天文學士ダヒットリン氏外ハ名  
本洋者共金星之鐘行空何之  
為ノ同國政府ハ派出之有免狀附與  
外務省ヨリ電線架設之義ハ  
支ク事也今ハ本邦ノ起ラシテ  
合之ニ起ル事ハ其ハ如何  
也

明治三十二年十月七日

内務大臣ノ丞

外務大臣ノ丞

内務省

明治三十二年十月七日

七五右外紙

第... 日...

十月...

種々

本有

大臣... 外務...

佛... 家...

...

Main body of handwritten text in vertical columns.

且各國... 外務...

明治... 年...

校済

佛國星學家末若付呈持憲械等字從通  
并之簿

今設佛國星學家末若之儀回國之使より申出候  
付取一昨五日及は屆至修受右字呈持憲械  
等陸揚之儀、苗九月十五日、申台申申候儀  
通領事之儀、以之字從通并、本儀、至急大  
花省、は達有之儀、且他各國政府より派出星學  
士、進之儀、未之趣、付、爾後、之儀、申立、及、之、儀、  
大花省、より達有之儀、併、之、上申候也

外務省

明治七年十月七日

外務卿古島宗則

大政大臣三浦實義殿

七ノ大死は

第... 五月... 十月...



Handwritten notes and stamps at the top center.

大死

大死大少 外務大少

Main body of handwritten text in vertical columns.

外務省

Table with multiple vertical columns, mostly empty.

學第千八百四十七号

金星試驗之為佛國皇學家來朝  
之付面略云、庚辰市之趣委曲  
儀知多、按之、靈明八日午後第一時  
當首へ、疑之、多、同國公使より照會  
之、面略一、所、已、去、也、  
條、所、首、へ、別、段、出、頭、不、  
諾、相、成、度、後、答、知、也、也、

明治七年十月七日

文部大輔田中不二磨

外務卿寺島宗則殿

十月廿六日 文部省

濟

十四号

和名 四條公房

外務省

之

本名

明治七年十月の於此務る寺島公房(海軍)

二二〇号

公使

此人乃早稲子者友之次者ナリト云

只今甲申文部大臣御下取致五郎  
上安(海軍)及飯島氏(海軍)各注(海軍)申

外務省

越子

早稲子

白(海軍)及飯島氏(海軍)改(海軍)申

公使

早稲子(海軍)令早稲子(海軍)大坂神戶

或(海軍)申(海軍)申(海軍)申(海軍)申

早稲子(海軍)申(海軍)申

長崎神戶(海軍)申(海軍)申(海軍)申(海軍)申

天多(海軍)

東京(海軍)申(海軍)申(海軍)申(海軍)申

寫

覽



關下ノ申付能田中文新大福之旨ト似  
ヲリ

京路ハ大坂近キ故格別ニ大進モテ  
也

丁酉年ハ赤ノ海東京ヲ距テ十里ノ日ノ  
ヲ降ニ東ニハ晴ルニシ

公使

函根ハ毎ヨリ天ナレ東ニハ晴ル  
東京橋ノ後ニハ後ノ也ナリ

大坂兵ノ後ニハ多雨海兵ノ近傍ニ  
外務省

アリテ各令一ノ在ニハ東京ニテ又ハノ言ヌ  
可也乃橋ノ後ニハ晴ルニシ

昔只山ノ巔ニ就テ測ルニ此ノ田ノ畧  
村アリ言ヌハ小田ノ地ヲ要ス

田ノ中ニ昔ノ田ノ名ヲ西ノ名故佛  
南部ニテ天ノ世ノ名波ノ名也

櫻城ニテ有シ

親王ノ名波ノ名ノ名ノ名  
大坂也也也也

公便

親善設置の爲に、所定の  
1. 各府県、地方官の協力を  
得る者、口説きの爲に、又都道府  
県に  
任るべし

田中以下、能くは、  
外務省  
ヲ指ス 別紙に、  
海軍省、三々、  
才地者、カ、  
54

外務省



仲國の皇太子を奉りて高麗に封  
為儀の母親道原の孫に命  
す皇太子は自六月七日に  
大正天皇の御手紙に封じ  
御事奉りて奉りて回す  
す皇太子は自六月七日に  
入封す

史 友

外務大臣  
西中

大 政 官

寫 濟

海

別紙

編濟

大蔵省

別紙外務省少将各國より  
呈上るる海峽東洋の観望品  
械等々を視通関に於て未だ通  
及指令を條々開港場視関  
守の方を急可取計此等相  
違ひ事

明治七年九月廿七日

太政大臣三條實美

太政官

七五六三

第... 五月... 十月...

外務省

外務省

大務大臣

外務大臣

...

佛... 家... 外務大臣... 申進... 外務省

明治七年十月...



七ノノノノノ

校  
印  
本

天  
原

第  
十  
五  
号

佛國皇字家第着三行可持器城事  
皇後通関之矣三行能関下通遠方也省

3-2508

0304



學第千八百七拾号

今般来航相候佛國星  
學家ゼアソソ氏不日當出  
發可致心組之由申候保  
就テハ者者北等出仕古賀  
護太郎隊隨行爲候候  
依テハ於法省米國星學  
家同様ニ接待ヲ以佛語  
通辭出來者者若隨  
行申付相候度此段至  
急及テ照會候也

文部省

明治七年十月九日

田中文部大輔

寺島外務卿殿

寫濟

千八百七拾号





第百六十号 十月十日

あろ

文部省 外務省

佛手生字家セマニツニ氏中出資後  
之部は若吉賀ニ渡り了隨道ニ付相  
年ニ至ル事國生字家ニ付成者名  
仲信通并出中一石隨白一付付  
了<sup>去補</sup>及<sup>去補</sup>外務省ニ其合<sup>去補</sup>也  
事國生字家學陽ノ出資一節等  
者名子一隨白一付<sup>去補</sup>義等者方名  
其後了<sup>去補</sup>一石隨白一付<sup>去補</sup>者名  
了<sup>去補</sup>及<sup>去補</sup>外務省

外務省

七年十月九



事三套第百四号

佛國天文士金屋經道が  
測量出張を以て付るに横濱東  
京港に在りし土官を以て器械  
一具多しを佛國問ひて之を以て  
口差支へし使に之を以て向て  
方等より之を以て計りて之を  
及の儀形也

十月十日

海軍省

外務省

十月十日

海軍省

寫濟

海

本日の天文士金屋經道が  
測量出張を以て付るに横濱東  
京港に在りし土官を以て器械  
一具多しを佛國問ひて之を以  
て口差支へし使に之を以て向  
て方等より之を以て計りて之  
を及の儀形也

ウチカ

横濱神五郎根更ニテ相テ改メ又ヨウ命  
セラレタル故ニ此奉ルハ多ク分テ存  
シテ為念カラス

要領

平濟

海

六

方三回十二号 十日 十二日

七五海軍

仙園天文士全星經過与剛星出後の  
積廣糸赤糸洋中 出有主なる  
器械一見者為質同 是星之玉糸度者  
所出者 一級致承知の明後十二日 外務省  
中 海軍 其星 否之 此 以 可  
乃由國 否 否 也  
七年十月十日

外務省

外務省

海軍省

以 可

外務省

十月十一日

	<p>向十の附テ、          本館を以て、          本館を以て、          本館を以て、</p>	<p>本館を以て、          本館を以て、          本館を以て、</p>	<p>本館を以て、          本館を以て、          本館を以て、</p>	<p>本館を以て、          本館を以て、          本館を以て、</p>	<p>本館を以て、          本館を以て、          本館を以て、</p>	<p>本館を以て、          本館を以て、          本館を以て、</p>	<p>本館を以て、          本館を以て、          本館を以て、</p>	<p>本館を以て、          本館を以て、          本館を以て、</p>	<p>本館を以て、          本館を以て、          本館を以て、</p>	<p>本館を以て、          本館を以て、          本館を以て、</p>	<p>本館を以て、          本館を以て、          本館を以て、</p>
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

外務省

外務省

本館を以て、本館を以て、本館を以て、



學第千八百九拾貳號

佛國星學博士ニヤア之氏ノ  
 通辯トシテ官負隨以云々  
 三月廿四日星學博士ニヤア之氏ノ  
 官ハ米國星學家家崎陽  
 江出發之旨奉旨有ヨリ  
 隨以ヨリ付無之語ニ依據  
 出願之旨有ヨリ一者ヨリ  
 遠ニ出米者ニ奉旨其像  
 新ニ心奉旨奉旨奉旨奉旨

文部省

寫濟

致後物又ハ般隨以申付  
 古賀護太即子身奉旨之  
 後生ハ出辯ニ據以同人身  
 二ハ奉旨以奉旨奉旨ハ  
 總ハ官何ハ後者ヨリハ  
 隨以奉旨者一名ヨリハ  
 奉旨奉旨此段再ハ及以  
 奉旨奉旨奉旨奉旨奉旨  
 奉旨奉旨奉旨奉旨





明治七年十月十日 文部大少丞

外務大少丞  
以中

文部省

抄書 十月廿三日

輔

子子少子 抄書 大少

件 國之生るる家ニヤマレソシクハ一海ニ毎トシテ

方々通リニ我ニ為ル由國ニ為ル如ク者

古ヨリ度ニ行ハシテ多クシテ果テ有ル事ナリ

難シク方々有ル事ハ件ニ依リテ少クシテ有ル事

ニモテ件ニ依リテ多クシテ有ル事ナリ

此ノ如ク有ル事ハ件ニ依リテ少クシテ有ル事

外務省

抄書 十月廿三日



第百三十四号

廿一四

外務省

官記

印

外務省の事務に關する  
古く今般佛國皇太子の御上りヤンセに氏皇  
威顯たるは向て軍艦の御上り御兵庫長官  
等々巡回時宜しより上陸の事も及ぶ  
為周旋の事の中は向て大務及び向て  
廿一四日十三日 外務大臣

史官

外務省

第百三十四号







正上口へは日蓮宗を新しき一を  
 及長海へ向て宣し候所を尋ねて地  
 へりて申す候所より来りて其の意  
 へ候所ありて其の意を尋ねて  
 申す候所也

七年四月廿日 御書付物山守書付

大徳寺新修の御書付取

寺の御書付取の御書付取

寺の御書付取の御書付取

寺の御書付取の御書付取

外務省

寫濟

其後拾遺

今般佛(天)天文士(ジャア)ソ(氏)是  
 金(皇)實(例)之(為)酒(米)之(舟)回(人)  
 而(指)自(年)不(及)是(械)一(切)無  
 稅(通)兵(可)斗(以)振(機)深(神)戶  
 有(稅)矣(之)遠(至)極(中)越(了)兼  
 降(右)家(前)米(國)天(文)士(男)酒(米)  
 之(節)各(港)稅(矣)一(各)國(者)星(學)  
 家(酒)米(以)砂(之)其(玉)多(有)其(所)  
 六(回)一(自)年(不)及(若)械(男)無(稅)矣  
 十月廿三日  
 大藏省  
 可(指)行(与)路(之)出(遠)至(極)中(之)物(有)  
 之(般)舟(之)越(之)家(之)格(別)更(之)亦  
 遠(至)一(以)其(多)矣(之)無(之)國(之)心  
 得(与)之(水)矣(及)其(報)之(也)  
 七年十月十三日  
 程(程)防(松)方(官)我  
 外(第)大(少)志(也)  
 追(多)少(事)亦(中)能(指)矣(男)一(切)降(之)  
 一(十)年(之)無(之)稅(通)矣(之)其(之)之)  
 一(年)左(之)第(多)回(院)之(以)其(之)其(降)  
 父(家)行(之)之(男)矣(及)其(通)矣(可)指(行)

聖德太子



トハ本邦通商公是の爲に添へ也

大藏省

3-2508

0319



七年七月五日

庶務局

世号 十の部

海防局

手方程記... 昨... 土... 西... 旨... 事...

海

外務省

七の太極図

中書

十の太極図

天

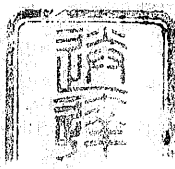
方以百三十七

各國より星學家家渡来し節

觀星器械等無故に交通國に傳

上申

今般各國より金星冥測を為渡来候學士所持之器械其他所持品等陸揚之節無視



第百三十七号

各國ヨリ星學家法年ノ節觀望器

械ヲ每改ニ通關シ儀上申

今般各國ヨリ金星望遠ノ器及他

學士所持シ器械他所持品ヲ陸揚

ノ節每稅通算シ儀並テ及申儀

許可ニ申年ノ所ノ古觀望器

械諸ノ多ク有テ換シルヤ亦有テ屬子

對シ其ノ為ニ取換ルテハ試驗シテ

支當然ノ故ニ每改ニ通關シ

十月 十号

外務省

許可シ儀更ニ各關港埠稅算

者ニシテ其ノ多ク大藏省ノ下達

者ニシテ其ノ多ク大藏省ノ下達

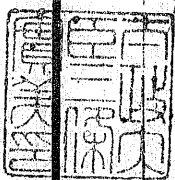
明治三十年十月十日 外務卿 島宗則

太政大臣 三條實美 殿

上申ノ趣聞而公此ノ由大藏

省ノ取違ハ事

明治三十年十月十日





寫

重復

大宛者

多國星子馬所來し市了觀是  
為絨無稅通商し候れ日大九の  
おもひを厚く改三通商の標  
多し馬場税あり王急可也年  
事

明治七年十月十日

大宛大臣三澤のり著

太政官



御覽

一 荷蘭西國

天正壬午生

ヒアンセロ氏

口人附屬

田國人

十 能程

外務省

此書は本年三月甲午金貨に發行せられたる

外務省西國政務司より奉り、此書は官費より

以國內何れに於てありては爲るべき所を見

外務省

之し有る所、一、その日而して其の用は

高き所より、其の用は其の用は其の用は

其の用は其の用は其の用は其の用は

但し、其の用は其の用は其の用は其の用は

其の用は其の用は其の用は其の用は

明治七年十月十日

外務省

校了

日

長崎税関

神戸税関

横濱税関

既、電信ヲ以テ畧建設、並ニ通リ管ヲ第九號ヲ以テ  
予達、各々國星學家、金星實測ノ為ニ其港ニ航着  
スルニ於テハ其器械及自用品ニ總檢査ニ及ビ、又  
支那税通關可シ、差許シ、後更ニ差違ニ事

明治七年十月

租税頭松方正義

右通今、日、達、其、成、落、其、着、達、書、不、達、示、學、士、航、着

外務省

亦、以、テ、ハ、不、知、合、ニ、甘、不、取、放、爲、同、外、務、八、等、出、仕、  
子、亦、托、一、亦、意、以、報、達、及、其、也

十月十四日

林 山田

長崎租税控助友

横山租税控助友

天

今般律國星學博士シマニセシ氏外十名  
金星質測之名ノ派系ニ付日國公使申

正正

正正  
正正

3-2508

0327

寫濟

今般佛國星洲博士ニヤコセシ氏  
外十名金星實況之為ノ海來  
有同國公使申立ヨリ内地通  
行免状付與ノ事十四日午後  
神戶港正向ヶ山航路ヨリ海陸通カ  
ニ越球函知ル旨馬車回報ル也  
明治七年十月十七日

内務大臣ノ御

外務大臣ノ御

内務省

寫濟



芳名中

芳名号

一 翰致呈達候然者去月十四日東京發足之後午後芳五時頃横濱港ニ於テ佛國軍艦デストレー号ニ乘込全十六日午前芳十一時一回毎恙神戸港ニ着岸同死ニテ兩三日間試験場選考ニ時日ヲ費シ萬務ヲ施シ七日程滞逗致居候其間佛國星字士神戸長寄二港ノ氣候晴雨等ノ変ニ付諸人ニ尋問之上比較研究致長崎港ノ天最モ晴朗ナル事ト同人ニ決議シ長崎發行ノ趣ニ相成候

全月九日神戸港解纜三十九時間ノ航海ニテ全九日午前八時頃尙長崎港ニ着船致シ同日ヨリ試験場穿鑿ニ懸リ近村處ニ徘徊シ遂ニ長崎村ト浦上村ト坂ノ琴平山ニ場ヲ定メ此山ノ南面白井稻荷ト称フル処ニ天文臺七ヶ所創造可致見込ヲ以テ至今建築最中ニ有之也

神戶長崎西船より申指令より達を力  
致す并佛國星字士より格を拜候し  
有る事

物事より神戶より七日程を延中し金星  
試験場多し并仙人住多等取極し為す  
手管致候事到底泡氷に水取申取

星驗器并天文用木杖等凡テ四百三十揃  
佛國より運輸致来り致意路運般陸  
上船積等、車、至極混雜有る事得し神戶  
長崎税關より格より、申指令より通る候

是改より諸果等申指令よりし萬更  
便宜事申取

是等の諸果ヲ登山せしむ、人力ヲ至力ニ費  
之建築モ迅速ヲ要ス事有之本日未  
一日モ寸暇なく日夜兼奔西走致し彼等

此届書期マテ遅延ニ相成り致し  
察奉布上申取此殿此届申上者謹啓

七年十月四日  
長崎東邊町表土中  
鶴田外務省等出仕  
外務大少丞  
市中





七箇兵庫東

12

甲子六月四日  
朱

佛國星學博士段程之儀并御名

佛國星學博士ニヤシシ以今星武殿長崎地方治定

致此程當地段程致候此段御由申上候也

明治七年十月廿五日 兵庫縣令神田孝平

小幡郷寺島宗則殿

十月七日 六三三三三三三 兵庫縣



Handwritten mark or signature at the top right.

Handwritten text: 外務省 (Ministry of Foreign Affairs)

Handwritten text: 公言録 (Official Record)

Handwritten date: 十一月十三日 (November 13th)

Handwritten text: 校原親閑 白鳥三子魚

Main handwritten text in vertical columns, likely a letter or official document.

Handwritten text: 十月十三日 (October 13th)

外務省 (Ministry of Foreign Affairs)

今般星是哥共和ヨリ日本國ニ於テ金星點  
檢之為欲出波後星學使節姓名表

星學司長兼使節頭取

フランシスコデアツコウルピマス

二番星學司

フランシスコチム子ル

數學司兼風土検査官

マヌエルヘルナンデス

數學司兼博物司

外務省

アグスティンバルロク

會計司兼コロシスト

フランシスコブルエス

右を一々ハる七十四年十月十七日ウアスコデカマ号

郵船ニ而桑港出帆後ハ

千ヤールスウオルコトブルク

千八百七十四年 十月十四日  
自公使館に公 至青島の船  
大 墨新格改分り全呈す  
例人員派し  
意

別紙

3-2508

0334

proposing not to proceed to  
China, as they were author-  
ized to do, ask my good  
offices, in the absence of a  
Mexican Minister in this  
Empire to make known their  
presence in Japan and the  
duties assigned to them, to  
the end, if it please Your  
Excellency's Government, that  
a permit may be given them  
to locate in Japan, at  
such place as may be deemed  
advisable, a station for making  
the observations and also the  
privilege of erecting a telegraph-  
ic line to connect their sta-  
tion of observation with the  
nearest telegraph office of the  
Empire &c. It gives me pleasure  
to commend these gentlemen  
as of high character and  
attainments, and to say  
that they have expressed the  
wish, if it be agreeable to  
Your

Your Excellency's Government  
to grant their request, that  
Your Excellency's Government  
will appoint some Japanese  
officials to join them and  
to witness their methods of  
observation, and to aid  
them in the use of the  
telegraph.

May I ask the  
favor of an early reply  
to this communication?

I have the honor to be  
Your Excellency's  
Obedient Servant,  
Wm. A. Stephens

United States Legation,  
Tokio, November 14, 1874.

Your Excellency:

I have the honor to  
inform you that I am in re-  
ceipt of a communication from  
the Honorable John W. Foster,  
United States Minister to  
Mexico, in which he acquaints  
me that the Government of  
Mexico has appointed Com-  
missioners to observe the Transit  
of Venus, to-wit: Francisco Diaz  
Covarrubias, Chief of the Expedition,  
and, as assistants, D. Francisco  
Jiminez, D. Manuel Fernandez,  
D. Augustin Brevis and D.  
Francisco Bulnes.

These gentlemen  
having arrived in Japan, and  
proposing

Your Excellency  
Teraakuma Munemori,  
U. S. Minister for Foreign Affs.



按濟  
寫濟

海

同録付  
二  
年  
三  
月

此書繪得内容其陳若墨斯格在駐我  
 合元國公使「デヨンドフリエー、フォルストル」氏ヨリ  
 奉書有之同國政府ヲ於ラ金星ノ運行ノ爲  
 實例流中ノ委員ヲ命「セラレ別」其日長ハ  
 フランシスコ、テヤツコワルビスニテ「フランシスコ」  
 ツ及「マニエルク」ヘルナンデス「マニエルク」  
 フランシスコ「フリエー」ハ其補助ヲ由知ルニ  
 右ノ人員既ニ當國ニ來着候サレ而國政府ノ  
 命ニ依テ在「法國」ニハ部カレサルノ懸記テハ尚  
 國ニハ未墨斯格ヨリ流出ノ公使並之ニ付  
 同氏等來着ノ旨ノ貴政府ニ轉出且其  
 所任ノ次第ヲモ申告ノ上右側ノ量ノ爲メ  
 通宣ノ場下ヲ取候テ其旨ヨリ是等ノ  
 美國電行旨ニ電線ヲ架スル事ノ了貴  
 政府ノ所許可ヲ得テ其旨ニ因テノ儀  
 拙者ニ依テ其教旨右ノ人員ハ人物技術出  
 高考ノ人々ニ其旨之將又貴政府ニテ所許  
 可ヲ得テ其旨ニ貴國官員ヲモ差加ヘテ其旨

外務省

測ノ方法実見ヲ遂ケサセテ且電報ノ  
多加留ヲモ受テ希シテ致ク由右ノ以テ  
味ハ何分ノは四各方ニ及ビ以テ進歩致白

千八百七十四年  
十一月十四日

チヨシ、エ、ビンハム

外務卿寺島宗則

閣下

外務省



第九号

庚子年

七月六日

...

口

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

外務省

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

外第1067号

過利電報を以て申すは、條約未滿國墨  
其哥副國務セリタリ一兼金屋試駭  
事務長官フランシスコ・デマス・コワルビヨス  
ナル者米國公使に紹介を請ひ、前者へ申立  
て、直に報を以て金屋試駭にたのめ、港居由  
地外伊勢山に於て一宅を假借し、其宅を  
留拵据付し、小屋を租立、最考し、一家  
七借受者、今夜お借且、本日にも取掛、不  
申、之を誠懇に問、答、之を以て、當、中

神奈川縣

之、以て、此、者、於、此、地、に、於、て、一、宅、を、假、借、し、  
支、付、し、之、を、以、て、地、を、假、借、し、之、を、以、て、一、宅、に、  
事、故、他、日、不、都、者、ナ、キ、押、付、之、を、以、て、假、借、  
以、得、之、以、て、假、借、者、米、國、公、使、に、申、立、  
大、急、に、此、地、を、假、借、す、也、

神奈川縣中島郡

以、海、軍、士、官、ナ、リ、

神奈川縣中島郡

外務省島嶼課

寫濟

外務省

明治七年送達紙

スベテ電信ノ類ニ出  
ルモノハ通信規則  
通り心得  
長崎郵便局印

技術	大川	局	着	第	六	第	四	局	發	第	四	第	四
			十一月十六日		六		四	長崎局			四		四
					六		四				四		四

外務省  
長崎縣

メキシコセイフヨリハシユツノ  
 テンモンカヨリキヨリウチダハ  
 ノチヲセイガクシケンノタ  
 カリタキム子モフシイデタリ  
 カシテヨロシキヤヘシジヲ  
 コフイサイハシヨメシニテ

七  
長崎

明治 年 送 達 紙

技術	着 局		年 局		發 局		スベテ電信ノ類ニ出ルモノハ 通リ心得 親 印
	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	第 號	
	月 日	月 日	時 分	月 日	月 日	月 日	報 號
モ フ シ ア ゲ ル							

3-2508

0342

七月廿七日

外務省 第七百九十九号

閣下

本局

伊豆内務局長 吉田

之取置新島學堂及東京學堂試強  
るに海軍中隊を以て海防の未備ニ  
在りては海軍と物別ニ海軍に  
相立當りし中一に海軍中隊  
隊員を以て海軍中隊に代りし  
に及ばざるを以て海軍中隊に  
外務省

七月廿七日

外務省 第七百九十九号



寫濟

奉 皇 德 三 年 冬

海軍省 加藤 啓 成  
本之者 義 金 星 試 驗 之 者 又 敏  
長崎 表 在 派 出 故 産 及 否 亦 試  
驗 之 旨 多 矣 萬 分 同 表 七 羅 越 越 佐  
片 神 國 一 星 字 家 治 德 臣 三 清 賢  
河 研 究 故 合 名 之 及 凡 局 此 旨  
右 皇 子 家 十 九 日 入 方 少 通  
奉 一 旨 了 凡 探 察 存 此 旨  
乃 在 執 德 臣 也

海軍省

西曆 一九一三年 十一月 十七日  
外務省 吉岡 宗 四 友

第百廿四巻之十廿四ノ目

海防白書

御  
手  
紙

					<p>外務省</p>	<p>鶴田</p>	<p>入</p>	<p>長</p>	<p>昨</p>	<p>御</p>
--	--	--	--	--	------------	-----------	----------	----------	----------	----------



御



島濟

○

豊後新田國より金田山式  
 藤之るの藤葉三葉増分多葉皆  
 存ホる藤葉を以て物納あり  
 り多なることあるも  
 今十村に納めんとす  
 治を相成りしむるを  
 出方古印更

上  
 外務大臣  
 常  
 大  
 政  
 官

島濟

六百七十四号

卿

本局

明治五年十月十日 於此務の事務外務省  
米の及ビンガ氏に寄附

三反

一里斯哥里子友我地方、済済免許事務  
三反

墨形哥人、試導、以、安、回、の、月、  
也、以、子、最、上、の、地、の、地、の、地、の、地、の、地、  
我、是、子、友、の、地、の、地、の、地、の、地、の、地、

外務省

是、以、起、ま、る、地、の、地、の、地、の、地、の、地、  
是、以、起、ま、る、地、の、地、の、地、の、地、の、地、

地、の、地、の、地、の、地、の、地、の、地、

地、の、地、の、地、の、地、の、地、の、地、  
地、の、地、の、地、の、地、の、地、の、地、  
地、の、地、の、地、の、地、の、地、の、地、  
地、の、地、の、地、の、地、の、地、の、地、  
地、の、地、の、地、の、地、の、地、の、地、

地、の、地、の、地、の、地、の、地、の、地、

寫濟

又防衛に備へた友の事由  
可なり候事

新平の口は、此れも、是れも、友の事由  
に由る事候事

彌持前より、此れも、是れも、友の事由  
に由る事候事

日合に、是れも、是れも、友の事由  
に由る事候事

諸々、此れも、是れも、友の事由  
に由る事候事

此れも、是れも、友の事由  
に由る事候事

此れも、是れも、友の事由  
に由る事候事

此れも、是れも、友の事由  
に由る事候事

此れも、是れも、友の事由  
に由る事候事

此れも、是れも、友の事由  
に由る事候事

外務省

己中

馬濟 援濟

七五五

ナリウケル

口鳥

唐海石

補  
不乃之

中リ十宮付手給ヲ以テ被星新松國  
政所ナリ至星之邊行ハル察測極多  
委矣以著者測量ニ必死過至ハ傷亦  
亦役ケル傳信角ナリ候ニ觀望ニ一  
聚カニハ美海ノ中ニ候ニ極海極  
亦候極ニ著ニ事ニ事ナリト事  
トモ存理進歩ノ補ゆニ事ニ事  
天文學 外務省  
張海者情司ノ事ニ事ニ事ニ事  
許可ナリ候ニ事ニ事ニ事ニ事  
候所候ニ事ニ事ニ事ニ事  
七年十一月十九日

本島砂浜口

本國公使

平下

七ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

外務省

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付

三ノ大ニ付



古事工初性

正徳ノ初年ヲ得テ所ニ達スル

井ノ口ノ事

正徳

正徳

以

正徳ノ初年ヲ得テ所ニ達スル

墨新移國跡新チ市多クアリ金銀の

沙捺要領ヲ常シ以國一極也神者同谷

者ノ移チ志存ク地一極也海軍者之文

特別ニ大ノ心ヲ持テ成ル者則チ本國

公使チリト東出字多ク世々系チ有ル

有リ一時電報架設ホシ大極極海軍者

外務省

正徳ノ初年ヲ得テ所ニ達スル

七年下リノ事



A large rectangular frame containing vertical columns of text, likely a ledger or a structured document. The text is written in cursive and is mostly illegible due to the image quality.



白紙ノ紙管ヲ持シ以テ書キテ  
其ノ上ニ金印ヲ捺スルヲ以テ  
事ノ成ルヲ示スル也

江  
西  
撫  
臣  
張  
之  
洞  
白

甲

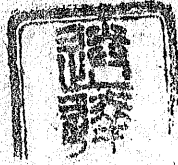


中島科多の領事官  
星野武官の領事官  
星野武官の領事官  
星野武官の領事官  
星野武官の領事官  
星野武官の領事官  
星野武官の領事官  
星野武官の領事官  
星野武官の領事官  
星野武官の領事官

外務省

七月十一日





第廿九号

墨斯格國學堂校長全呈試檢視察等情  
 墨斯格國政府ノ本年十二月全呈  
 為試檢委員ヲ命ジ馬國日派遣ス  
 二付右試檢ノ為ニ適宜ノ地日視察  
 設置スル件可相率度官別等之通米國使  
 司申立之國為勸告ス墨斯格國ノ使余條  
 約條等ノ件ニ尋常ノ類也于國使等之條  
 全呈試檢ノ事ニ實教年間一奉事ニ之處理  
 進等補助ニ相成且其國ノ使便且之地下之教  
 十一月 七号

外務省

既ニ米條等ノ教員等派遣スル件ニ特別  
 件ノ旨件可相成方也之類也且件等  
 可相成之件ニ其旨等ノ旨等ノ旨等  
 達相成方也之類也

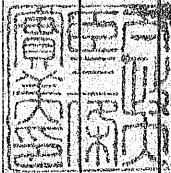
七年十一月廿五日

外務卿寺島宗明

大臣官三條實久殿





伺之趣聞届別紙之通文部省  
 申達候事

明治七年十一月廿日



3-2508

0354



  


  
 文部省  
 別紙外務省何事新抄云々全皇儀  
 駢々為乞治案片者之測云々場所貸之治  
 等々云々末書云々及拾令云々案口者思合

有本

Handwritten text in a cursive style, likely a signature or official seal, located in the right margin of the document.

文部省

別紙外務省伺呈ス格國  
ヨリ金星試験ニ為シ海軍  
者測量場存貸派等ニ  
未書ニ通及指令有案日省  
照書ニ上及支多ニ取  
可取

明治七年十一月九日

太政大臣三條實美

太政官

寫濟

庚午年二月十八日

里士斯格國海防... 試經... 捕... 一... 昨... 知... 乃

七年十月廿日

電信寮

電信寮

外務省

要濟

七〇九

三十一

			星加坡(新嘉坡)星加坡(新嘉坡)フランシスコデヤスコワル ビヨス、地ル、高、居、貨、海、艦、計、多、門、お、ん、ト 洞出、お、ま、ち、ラ、い、テ、高、赤、金、を、採、り、了、る、事、也 川、修、約、す、ま、腐、り、に、一、度、を、行、地、ノ、民、口、振 へ、注、別、お、守、ラ、セ、信、信、信、な、り、た、ま、る、事、也、と、云、ふ
--	--	--	--



Handwritten text in a cursive style, possibly a signature or a note, located in the upper right corner of the document. The text is written vertically and includes some characters that appear to be names or titles.

Handwritten Japanese text in a cursive style, located in the middle right section of the document. The text is written vertically and appears to be a formal communication or a report.

内務省  
外務卿官舎  
Handwritten text in the middle left section of the document, identifying the recipient or the office.

A grid of vertical lines, likely a table or a form, located in the lower left section of the document. The grid consists of approximately 10 vertical columns and several horizontal rows, but it is mostly empty.



千八百七十四年十月廿二日  
自公使の歸來 至寺の御終り  
大町奉行新橋番員同体  
出者  
意

別紙

U.S. Legation

Mexico -

29th Nov. 1874

Dear Mr. Terashima:

Mr. Garzaubi and his associates commissioned by the Republic of Mexico will call upon you at the Foreign Office on tomorrow afternoon at 3 1/2 o'clock P.M. when I will have the honor to present them.

With great respect

Your friend &c

Wm A. Duffham

H.E.

Terashima Mamoru

Asst. Secy. of State

for Foreign Affairs

de la de.

七月二十日

のり

皇朝土音國の派遣する委員カハルビ  
アス氏且右随員一同長官の事務者  
回道を以て下外務省に於て之を  
多中後四女を以て  
千九百零四年七月二十日

外務省  
外務省  
外務省

外務省

七  
道  
工  
初  
日

唐  
書  
卷  
百

唐書卷百  
唐書卷百  
唐書卷百  
唐書卷百  
唐書卷百  
唐書卷百  
唐書卷百  
唐書卷百  
唐書卷百  
唐書卷百

3-2508

0362

同前号の事務に於ては、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、

事務に關する事項は、

事務に關する事項は、

事務に關する事項は、

事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、

外務省

事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、  
事務に關する事項は、

電信案

事務に關する事項は、

七年又新証

カクハシテ...

彦良石

田中芳村

墨新抄國天...

弟...

...

...

...

...

外務省

...

...



七ノ海軍

第百四十四号

勅諭

待海軍以改 考其為如何

皇朝新設國勢漸著 如年よりより

誠然と云ふ事あり 皇朝の國に

海軍の設けられ 海軍の

改定せしむる所あり 海軍の

考定せしむる所あり 海軍の

官制の改定せしむる所あり

海軍の改定せしむる所あり

外務省

日清出くまの事 改定せしむる所あり

七月十一日

寫濟

事考委分四自檢呈

墨斯格國政府の金星試験に  
九國の派遣員試験之案は中  
河之為長島省の古員之出  
云々以照會之趣被付好及  
軍中尉吉田重親回少尉補山崎  
吉勝回並佐古野水長三員前  
以之委員小松茂吉氏同の  
被付及長島省古員之出  
事考後未段以同古員之出

海軍省

陸軍省

昭和十一年七月廿九日海軍大臣河村兼義

事務次長島宗良氏



外第二〇一號

今般金星減驟トシテ渡来ニ重ク對哥人ハ勿國人  
 居由化外ニ於テ觀望ニ後ニ地存無家爲哥報  
 時宣渡ニ後者條約ニ滿國人ノ故去以月十  
 少者ハ何由ニ致有ニ在ニ聖聖年七七電報ニ以沙許  
 尤力ニ控十九年第一百九十九號ニ以觀望及傳  
 信條一時深投哥ニ候ハ沙許先由年以三白不都居  
 多ニ柳ニ在汁片ハ沙達一ニ喜ニ則國國人ニ其  
 地存家尤ニ務ニ其石紀ニ以宣渡乃不都居  
 之柳申論ニ在聖則國國人ノ理ニ任ニ其務ニ其  
 直ニ引居取地存ハ二月家爲三月間宣渡ニ在列位  
 第一号ニ通何由ニ在ニ同國置生滿國且暫時宣渡  
 取故別ニ規則ニ照準セ一聖約書ハ由宣出テ進字  
 上種特別ニ看做ハ候ハ沙達一ニ控リ控務ナ  
 ク復利也其道内務省ハ其知由在宣出ニ二十四日  
 紙第一号ニ通内務省ハ沙達九年其沙達一ニ控  
 ハ候件ハ未タ政府ハ沙許先由ニ地存家爲宣渡ニ在  
 條約條約人自終ニ在報ニ在之ニ中ハ其自者ハ沙打  
 居滿ニ在ニ在居殊ニ文部省ハ沙許先由年  
 沙達一者ハ其内務省ハ其何故于今沙許先由

寫濟

神奈川縣

之或程仙者不内務省の沙打居立若陳特分  
之存計概言抄漏並稱取致者同者、沙打居立  
陸軍省急沙不示と少致抄段申上出也

明治三十三年

神奈川知事 中島信行



外務卿寺島宗則殿

神奈川縣



寫濟

券一号

由何

弟孝夫區三區野毛町三番地居住中山  
權十中奉申少少換原居内地少四  
番御國ホタル居住天文者コフアロヒ一ア  
不事私所持地宜寄所少換不番地之内  
換八坪當十中十九ヨリ少々好之間洋  
銀少枚之代ヲ以借受後者申出ラレ  
少得共少等兼不沙觸示之義也方し  
少之有以股少回奉申少之以上

神奈川縣

考

以沙等券十中十九

中山權十中

到長 小山猪三少

戶長 及川正八

副區長 高島六少

神奈川縣令中山信行取

書面之趣引而少条不部在世  
標取斗可中少尤以換之例之去不  
相成少事



明治七年十一月廿日

神奈川縣印

加印

分考先區三少區陸家町四移を當地地保二見定次  
以考申之及控候由此ハ移由當佛ホテル居住  
天文者ヨア己一アス率當十有九ノ不三ケ月  
内品料洋服三枚収ヲ以自宅借宿及者被申出  
出所及控等兼而少觸示之由也者之有之自此候  
沙向考申之由以上

以迄考申之由以上

右

二見定次印

神奈川縣

副長 小山猪三印

副長 及川正八印

副長 高島十八印

神奈川縣中島信行印

書面之趣同届由系不却居申之候存斗一  
申以尤以後之候之由不却申之由

以迄考申之由以上

神奈川縣印



第二号

神奈川県

今般金星試験トシ渡来候里斯哥人フラシ  
 スコデヤスエールビヨスへ横濱地方由地外に控ラ地所家宛  
 貨渡之儀外務省へ同出候趣ヲ以同省ヨリ亦居世有  
 之候事有進字之特別ノ沙程儀ヲ以沙行可相度首正  
 院中及之通火就テハ自然沙行可相成候之儀ナ  
 内達之外國人居由地外地方家宛貨渡規則ニ照準  
 初條字案取調當省へ同書々移テ相以知此旨  
 相候修年

寫齊



明治二十二月廿

内務卿伊藤博文

神奈川県

七ノ月廿二日

福子



  
 本ル十七日附ヲ以テ御右方々々後豊前守人  
 フラシシスコデアスコワルビヨスル 地所安座債  
 渡之儀特別ヲ以テ許可致し彼方正院  
 上申致置事及者議之如リ法行可  
 相成之方 約條草案取御方 神々之知

3-2508

0373

去十七日附リ以テ船名有リトシ  
 新島人ヲラニミスコデヤスコワルボス  
 地行家底貸後ノ俄特利ニ以テ  
 致度方ニ院中一移置スル者有  
 如ク島神有相成ニ付約條草案  
 不調方神意ハ如何ニモ申出  
 功勞尚片協議可成ニ付テハ  
 此亦及島神意也

寫濟

去十七日附リ以テ船名有リトシ  
 新島人ヲラニミスコデヤスコワルボス  
 地行家底貸後ノ俄特利ニ以テ  
 致度方ニ院中一移置スル者有  
 如ク島神有相成ニ付約條草案  
 不調方神意ハ如何ニモ申出  
 功勞尚片協議可成ニ付テハ  
 此亦及島神意也

明治七年十月九日  
 内務卿  
 務省

明治七年十月九日  
 内務卿  
 務省

内務卿  
 務省



七文海軍本

翰

⑤

金星為試驗墨斯格國<sup>マスコグ</sup>派出之委員、當察士官隨行及偵測等之報告

3-2508

0375



此は海防小冊先以海防秘史  
自研地遊歴圖註若圖以家世

奎甲公誠始呈助格予小浪如  
負小義素古居陸川島野同等  
所小義會中存以心若從居  
予子之使小浪存りり起  
左之使小浪存りり起  
及心平同居也

印書志

水防

弟

水路寮

此は小浪出た  
初下使の  
十

寫齊

海

三月二日乃九



七夏海軍

石角

宗

昔寧士友墨斯吉國不流也。高負上隨後  
之儀。舟米國公使。出同合。未々。甲各量  
歩。是。其。以。吉。昔。寧。士。官。之。月。明。日。横。濱。米。國  
公使。破。逆。引。合。之。為。草。由。一。女。多。の。皆。者。出。都。合

3-2508

0377

以成無成也... 國方派當  
多事下... 國公使  
... 國公使  
... 國公使

天

...

寫濟

高原... 國方派當  
多事下... 國公使  
... 國公使  
... 國公使

...

水路寮

可... 水... 路... 寮



... 國... 寮... 寮...

學第ニ子ニ方四十九多

今般墨斯格國天文家金星  
試驗ニ付右ニ隨從實測之為  
當省八等出仕高良二朔四日  
弓横濱ニ出張相命候條  
此段以得迄及迄通知  
候也

明治七年十二月三日 文部大輔 島宗則 啓

島濟

外務卿 島宗則 啓

文部省

島濟